

令和6年度 算数・数学教育研究部会（読書会）報告

【第5回】

令和7年1月21日（火） 午後6時00分～ 場所：総合学習センター 研修室2
演題：『データの活用領域の指導について』
講師：愛知教育大学 准教授 青山 和裕 先生

◎今後求められる人材・教育とは

生成AIが普及していく現在、子どもたちができることも変化し、求められる人材・教育が変わってきている。社会を形作る若い世代に対して、「常識や前提にとらわれず、ゼロからイチを生み出す能力」「夢中を手放さず一つのことを掘り下げていく姿勢」「グローバルな社会課題を解決する意欲」「多様性を受容し他者と協働する能力」といった、根源的な意識・行動面に至る能力や姿勢が求められている。

現在の教育では、「注意深さ・ミスがないこと」、「責任感・真面目さ」が重視されるが、将来は右の資料のように、「問題発見力」、「的確な予測」、「革新性」が一層求められるようになる。そして、企業の採用基準は、「学校で何を深く学び、体得してきたのか」が重視されるようになる。新たな未来を牽引する人材が求められているのである。そうした人材は、「育てられる」のではなく、ある一定の環境の中で「自ら育つ」という視点が重要となる。



56の能力等に対する需要

2015年		2050年	
注意深さ・ミスがないこと	1.14	問題発見力	1.52
責任感・まじめさ	1.13	的確な予測	1.25
信頼感・誠実さ	1.12	革新性*	1.19
基本機能（読み、書き、計算、等）	1.11	的確な決定	1.12
スピード	1.10	情報収集	1.11
柔軟性	1.10	客観視	1.11
社会常識・マナー	1.10	コンピュータスキル	1.09
粘り強さ	1.09	言語スキル：口頭	1.08
基礎スキル*	1.09	科学・技術	1.07
意欲積極性	1.09	柔軟性	1.07
：	：	：	：

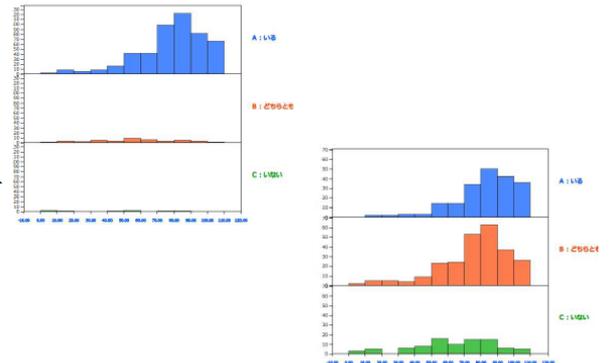
※基礎スキル：広く様々なことを、正確に、早くできるスキル ※革新性：新たなモノ、サービス、方法等を作り出す能力

◎データの活用領域の授業実践例

テーマ：「学校生活充実度」

全校生徒に、中学校生活を送っていて、自分自身がどれだけ充実しているのかを100点満点で答えてもらう。そして、「より学校を楽しく、そして充実度が低い子が高めるようなとりかかれないか」ということを考えていく。そして、「気軽に話せる友人がいますか」「学校内に悩みを相談できる先生はいますか」という質問と学校生活充実度をクロス集計することで、充実度を高めるには、気軽に話せる友人や相談できる先生がいた方がよいことが結果から読み取ることができる。そこから、得られた結果をもとに、子どもたち自身で、学校生活充実度を高めていくために、学校行事の中で楽しい企画を計画・実施することとなった。

学校生活充実度×学校内に「気軽に話せる友人」はいますか？



学校生活充実度×学校内に悩みを相談できる「先生」はいますか？

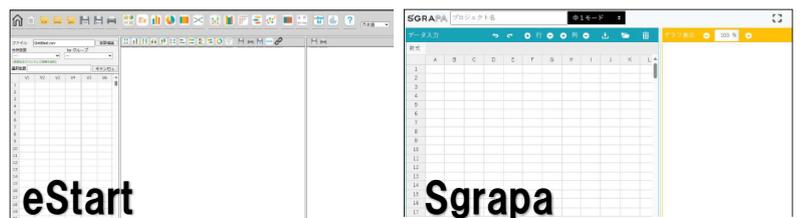
◎データの活用領域の授業のポイント

テーマ・題材の選び方

- ・身近な生活場面や学校での活動を利用 … 例：けが調べ、忘れ物調べ、スマホの利用実態調査
- ・手軽に進めればゲーム素材もあり … 例：10秒チャレンジ、タッチザナンバーズ
- ・SDGsや地球温暖化など社会問題は、子どもにとって身近な問題でないため、興味関心が低く、難しい。

データ分析で活用できるサイト

- ・eStat (<http://www.estat.me/estat/eStat/indexM.html>)
- ・Sprapa (<https://sgrapa.com/app/index.html>)



今回は青山先生をお招きして、統計教育についてご講演していただきました。「データの活用」領域の授業の実践事例や子どもができるデータ分析の方法を紹介していただくなど、明日からの授業に生かすことのできる有意義なご講話でした。ありがとうございました。

今年度の読書会も残すところ1回となりました。多くの先生にご参加いただき、充実した会にしていければと思います。